

地域と結びついた学校評価の在り方

札幌市立中の島中学校

I はじめに

学校評価システムの再構築



学校関係者評価委員会の設置

1 本校における学校評価のねらい

本校は、22年前、中の島地区に地域の方々の熱い思いで作られた学校である。行事や土曜参観、施設開放などで来校する保護者や地域の方は多く、生徒も地域のボランティア活動やイベントに積極的に参加している。今までは、その交流の中で学校に対する意見や要望を伺い、毎年12月に実施している保護者と生徒による学校評価アンケートを、次年度の学校改善の資料として役立ててきた。

しかし、地域の思いに応えた信頼される学校づくりが求められている今日、これまでの評価の流れを見直し、新たに地域の声も生かした学校評価システムを本年度再構築することとした。この新システムにより、さらに地域に根ざした信頼される学校づくりを推進していきたいと考えている。

【新しい学校評価システム】

- ・年度初めに立てた重点目標と経営方針について、教職員による自己評価を行う。
- ・儀式的行事、授業参観、三者懇談、学校祭、合唱コンクール、講演会、説明会などで保護者や地域の方々が来校した際に、アンケートを実施する。
- ・学校関係者評価委員会（10名）を立ち上げ、教職員による自己評価が適切に行われているか、検証していただき意見をもらう。
- ・自己評価及び学校関係者評価書をホームページや学校便り、学校説明会等を通して、保護者や地域住民に公表・説明をする。

2 昨年度の学校評価をもとにした改善点

昨年度の学校評価の結果から、本校生徒に確実に定着させたい2つの課題が浮き彫りになった。本年度はその2つの課題である「基本的生活習慣の確立」と「基礎的・基本的な学力の定着」を経営方針に掲げ、生徒に学校生活の様々な場面で意識させ、取り組ませるように努めた。また、より多くの保護者や地域の方々に来校していただくために土曜参観を初めて実施した。さらに十数回に及ぶ保護者アンケートを実施して、それぞれの場面で適宜、評価を行ってきた。

開かれた学校評価を目指す試み

II 本校の学校評価システム

1 自己評価と評価委員会

本校では、教育課程委員会が学校評価委員会の機能を兼ねている。

2 学校関係者評価

学校評議員7名と現PTA役員3名の合計10名による学校関係者評価委員会を設置し任期3年で委嘱した。年数回の会議の他、各種行事の際、来校していただいている。

Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	自 己 評 価			学校関係者評価
	学校（教職員）	生 徒	保護者・地域	学校関係者評価委員会
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の方針決定 ・「自己評価書」の重点目標決定 ・授業参観・学級PTA・PTA総会 ・第1回教育課程委員会(今年度の学校評価の流れ決定) 		<ul style="list-style-type: none"> ①入学式アンケート ②授業参観アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観
5	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年説明会 ・土曜参観の実施 		③土曜参観アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員の委嘱
6	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会と校務部会（学校評価アンケートと「自己評価書」の項目検討） 			<ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校関係者評価委員会
7	<ul style="list-style-type: none"> ・三者懇談・家庭訪問 ・第2回教育課程委員会（今年度の学校評価アンケートと「自己評価書」の様式決定） 		④懇談アンケート	
8				
9	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭 		⑤学校祭アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・行事参観
10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開 ・合唱コンクール ・第3回教育課程委員会（学校評価の日程最終確認） 		<ul style="list-style-type: none"> ⑥授業アンケート ⑦合唱アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・行事参観
11	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会 ・教職員による学校評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの実施 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会（生徒・保護者対象） ・三者懇談会 ・教職員による自己評価の実施 ・教職員、生徒、保護者による学校評価のまとめと分析 		<ul style="list-style-type: none"> ⑧講演会アンケート ⑨懇談アンケート 	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回教育課程委員会（「自己評価書」の検討と作成） ・学校評価をもとにした反省学年会、校務会、教科会の実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・「自己評価書」を事前送付
2	<ul style="list-style-type: none"> ・反省職員会議 ・第5回教育課程委員会（「学校関係者評価書」の検討） 			<ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校関係者評価委員会
3	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式 ・1、2年学級PTA ・「自己評価及び学校関係者評価書」の提出とHP上での公表 ・第6回教育課程委員会（次年度の重点目標・経営方針決定） 		<ul style="list-style-type: none"> ⑩卒業式アンケート ⑪保護者（1・2年）アンケート 	

IV 学校評価の方法

1 自己評価

(1) 項目の設定

本年度、本校では自己評価書の評価項目を決める際に、まず昨年度の学校評価の結果を反映させた重点目標と、それを具体化した2つの経営方針を決めた。

【重点目標】「基礎・基本の確立と定着」

【経営方針】「基本的生活習慣の確立」と「基礎的・基本的な学力の定着」

次に、上記の目標と方針の達成状況を把握するために20の評価項目を設定した。その際、以下の3つの観点に沿って評価項目を設定した。

①本年度の目標と方針の達成状況を把握できる必要最小限に絞り込む。

②具体的なもので、教職員が意識的に取り組むことができるもの。

③本校生徒の実態に照らし合わせて、無理のない平易な表現にする。

この3つの観点にしたがって、評価項目を大きく4つの分野に分類した。(資料参照)

(2) 生徒・保護者アンケートの実施

本校の保護者アンケートは、①来校者アンケート(本年度は11回実施)、②学校評価アンケート(11月下旬に生徒を通して配布し実施)の2種類ある。生徒に対しては保護者と同時期に行う③学校評価アンケートを実施している。

①来校者アンケート(保護者や地域の方が行事や授業参観等で来校した際に実施)今年度実施した時期は、Ⅲ 学校評価の年間の流れに掲載している。アンケートの質問項目は4～5つで、行事や授業参観の感想、要望や意見を簡潔に記入してもらっている。(主に記述式)

②保護者による学校評価アンケート(回収率74.4%)

評価項目30(4段階評価)と選択肢問題(2問)と記述で構成。

③生徒による学校評価アンケート(回収率96%)

評価項目26(4段階評価)と選択肢問題(2問)と記述で構成。保護者アンケートと同種類の評価項目が10項目あり、比較検討できるようにしている。

(3) 結果の集約と分析・自己評価書の作成

①来校者アンケートは、その都度1枚のプリントに集約して職員会議の中で教職員に周知した。その中には直ぐに対応しなければならない課題も含まれており、速やかに改善に取り組んだ。

②保護者による学校評価アンケートは、情報教育推進委員会で作成した各項目の平均値が算出できるエクセルの集計シートに、12月の懇談会の時期に副担任が入力した。冬季休業中に教務係が集約と分析を行い、全教職員にまとめた冊子を配布する。

③生徒による学校評価アンケートも保護者アンケートと同様の流れで集約と分析を行う。両アンケートともに学級毎の分析、前年度との比較、保護者と生徒の比較等を加えてまとめる。

【自己評価書の作成】(資料参照)

保護者と生徒による学校評価の集約と分析を受けて、教職員による自己評価を実施する。教職員による自己評価はまず個人が4段階で行い、20の評価項目すべてについて改善の方策も個人で記入してもらう。その集約を冬季休業中に教務係が中心となり行う。達成状況の判定はA(4点)、B(3点)、C(2点)D(1点)として平均値を出し、3.5ポイント以上をA、3.5未満3.0以上をB、3.0未満をCとする。

本校の生徒にとって今、必要なことは?

評価項目はシンプルで20個程度に

【4月PTA総会より】



集計・分析は教職員の協力が不可欠

自己評価書は自分たちに厳しい姿勢で評価を下すべき

改善策の検討がポイント

(4) 改善策の検討

改善の方策は、次年度の重点目標や経営方針につながる重要なものである。また全教職員が改善の方策にしたがって同一歩調で歩んでいかなければならない。その意味で改善策の検討には十分な議論が必要である。本校では、教務係が作成した改善の方策の原案を、最初に1月の教育課程委員会で検討する。そこで修正と補足を加えて、2月初旬の反省職員会議で再度、全教職員で検討するようにしている。

評価に客観性を持たせるために10名の委員を！

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

前述のように本校では、学校評議員7名と現PTA役員3名の合計10名で学校関係者評価委員会を構成している。どのメンバーも本校の教育に対して、厳しくかつ温かい目を向けてくださっている方ばかりである。儀式的行事の出席や授業参観、学校祭や合唱コンクールの見学等、学校関係者評価を客観的かつ適正に行うため、できる限り来校してもらっている。

【第1回委員会より】



(2) 学校関係者評価書の作成

第2回学校関係者評価委員会（今年度は2月19日開催）で、一つひとつの項目について学校側より詳しく説明し「自己評価の適切さ」と「改善策の適切さ」の2つの観点で評価（4段階）を受ける。また、自己評価書は1月下旬に学校関係者評価委員に郵送して、事前に意見をまとめておいてもらうよう配慮している。

V 評価結果の公表

様々な手段を用いた評価結果の公表

1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

- ・学校だより「清流」に掲載し、保護者と校区内の25ヵ所の町内会すべてに配布。
- ・本校ホームページへの掲載。
- ・年度初めの学校説明会や学年PTA等で直接、保護者へ結果を説明する。

2 公表の効果

上記のように、複数の手段で公表することで、その情報を見たり聞いたりした保護者や地域住民の方々が学校に共感的理解を示し、ともに学校運営に参画していかうとする効果が期待できる。

VI 成果と課題

【成果】

- ・自己評価書を作成し学校関係者評価を行うことで課題が鮮明になり、教職員が前向きに学校改善に取り組むことができた。
- ・生徒と保護者による学校評価アンケートと、十数回に及ぶ来校者アンケートは、より確かな学校改善を目指す学校評価システムの再構築につながった。
- ・年度初めに重点目標や経営方針を立てることにより、その目標実現に向けて教職員の意識の高まりが見られた。

【課題】

- ・保護者アンケートと来校者アンケートの回収率を高めるための回収方法の検討、書きやすく提出しやすいアンケートを目指し、更に評価項目の精選が必要である。
- ・自己評価書及び学校関係者評価の改善の方策を、次年度の教育課程にどのように生かし、実践につなげていくかが重要である。

組織的なPDCAサイクルの実施

【参考文献】

- ・「札幌市の学校評価」～学校評価システム構築事業 実践収録～ 札幌市教育委員会

平成20年 自己評価書及び学校関係者評価書

札幌市立中の島中学校

1. 本年度の重点目標

「基礎・基本の確立と定着」

2. 本年度の経営方針

- ①基本的な生活習慣の確立（心優しく礼儀正しい気品ある生徒の育成）
 ②基礎的・基本的な学力の定着（基礎学力を身につけ意欲的に学ぶ生徒の育成）

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

（学校全体として、よく当てはまる。または十分達成されている「A」、だいたい当てはまる。またはおおむね十分である「B」、あまり当てはまらない。または不十分である「C」、全く当てはまらない。または改善を要する「D」として評価。）

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	本年度の重点目標「基礎・基本の確立と定着」は生徒の実態から見て適切である。	A	もっともな重点目標で・・・		
	本年度の経営方針（2つ）は重点目標や生徒の実態から見て適切である。	A	実態に即した方針であり・・・		
	教職員は重点目標や経営方針を生徒や保護者に伝え意識させる取組をしている。	B	学年PTAや学校説明会など・・・		
	学年会や職員室の会話の中などで、基礎・基本の確立と定着が話題になる。	B	生徒の日常的な変容について・・・		
学校関係者評価者による意見					
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着を図る取組が、どの教科においても意識されている。				
	提出物や家庭学習の習慣化など教職員は意欲的に学ぶ生徒の育成を心がけている。				
	発問、板書、説明、課題の提示などを通して、各教員が授業に工夫して取組んでいる。				
	ITの活用や補充的学習、習熟度別学習などを通して基礎学力の定着を図っている。				
学校関係者評価者による意見					
分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	教職員の間で、基本的な生活習慣の確立(遅刻・服装・身だしなみ等)を意識する取組が行われている。				
	教職員はいつも生徒に温かい励ましの言葉をかけたり、過ちなどに厳しく接したりしている。				

【資料2 学校評価教職員アンケート】

学校評価（教職員対象）基礎資料（A）

氏名	
----	--

【回答のしかた】

次の各内容について、学校全体として、よくあてはまるものを「A」、だいたいあてはまるものを「B」、あまりあてはまらないものは「C」、全くあてはまらないものを「D」、判断できなかつたりわからなかった場合は「0」として、お答えください。

1. 学校全体に関わる内容についての評価

(1) 教育目標・学校運営について ～管理職

①学校教育目標や学校経営の基本方針が明確になっている	A-B-C-D-0
②学校教育推進の重点が明確になっている	A-B-C-D-0
③教育方針をわかりやすく保護者、地域に伝えている	A-B-C-D-0
④各分掌や学年間の連携がとれ、協力して教育活動に当たっている	A-B-C-D-0
⑤会議等において教職員間の相互理解がなされ、信頼関係にもとづく活動がなされている。	A-B-C-D-0
○ご意見をお書きください	

(2) 教育課程～教務部・管理職

①教育課程編成においては学習指導要領の趣旨が活かされている	A-B-C-D-0
②教育課程編成においては、教職員でよく話し合っている	A-B-C-D-0
③教育課程は本校の教育環境等を考慮しているものになっている	A-B-C-D-0
④学校では特色ある教育活動が行われている	A-B-C-D-0
○ご意見をお書きください	

(3) 生徒指導～生徒指導部・学年

①受容と共感に基づいた生徒指導を行っている	A-B-C-D-0
②生徒の問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制ができている	A-B-C-D-0
③問題行動防止のため早期の指導、予防的な指導に全校的に取り組んでいる	A-B-C-D-0
④教育相談体制が整っており、生徒は担任以外の教師とも相談できる環境にある	A-B-C-D-0
⑤生徒指導において、保護者との連携を密にし保護者の協力を得られている	A-B-C-D-0
⑥生徒指導において、関係機関との連携が緊密に保たれている	A-B-C-D-0
⑦教師全体で共通理解のもと、足並みをそろえ協力して指導が行われている	A-B-C-D-0
○ご意見をお書きください	

(4) 教科～教務部・各教科部会

①必修教科では、基礎・基本を明確にし、その定着や技能の向上をはかれた	A-B-C-D-0
②各教科で、指導が工夫され、落ち着いた集中した授業が行われている	A-B-C-D-0